CA92276-5779

PRIMERGY BX620 S3 使用上の注意

このたびは、弊社の PRIMERGY BX620 S3 をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。本サーバをご使用になる上での追記事項がございますので、本書をよくお読みの上、ご使用願います。

平成 19 年 1 月
富士通株式会社

1. SAS モジュールの保守交換後の動作について

1-1 Integrated Mirror SAS について

本サーバに搭載されている SAS モジュールの Integrated Mirroring SAS 機能(RAID1)をご使用になっている際に、SAS モジュールまたはサーバブレードに何らかの不具合が発生し、SAS モジュール交換を行いますと、SAS モジュール上に保存されているハードディスクドライブの整合性に関する情報が失われます。この場合、再度データ整合性をあわせる目的でアレイコントローラのロジカルドライブの初期化処理を行う必要があります。
これは過去にライトデータが正しくハードディスクに書かれたかを記録するデータ整合性の情報を、SAS モジュール上に保存しているためです。本データは SAS モジュール上の不揮発性 RAM(NVRAM)に保存されております。そのデータを保守ツールにより交換直前に退避し、交換後に復元することが可能です。データが正常に退避・復元ができた場合には初期化処理を行う必要はありません。
しかし、装置が起動しない場合など、SAS モジュールまたはサーバブレードの不具合の内容によっては、システム上でツールを起動できず、情報を退避できない場合があります。その場合には再度データ整合性をあわせる目的で初期化を行う必要があります。また、NVRAM 情報が退避・復元できた場合でも、データ整合性を確認できなかった場合には、同様に初期化を行う必要があります。
ここで行われるロジカルドライブの初期化処理とは、2 台のハードディスク間において、バックグラウンドでデータのコピーを行いデータの整合性をあわせる動作であり、リビルド動作と同一です。

1-1-1 初期化中の留意事項について

Integrated Mirror SAS のロジカルドライブの初期化はバックグラウンド初期化処理にて行われますので、初期化中もハードディスクへドライブのアクセスは通常通り行えます。しかし、初期化が完了したロジカルドライブと比較すると充分な I/O 処理性能が得られない場合があります。
最大で約 54%の性能低下となる場合があります。

OS 稼動中に初期化対象ハードディスクドライブの前面ハードディスク故障ランプがリビルド時と同様に点滅します。
また、ServerView がインストールされている場合には本体の前面および後面保守ランプが点灯します。初期化完了後、これらのランプは自動で消灯いたします。この場合、前面保守ランプのみでなく、ServerView コンソール等により、各種装置の状態確認を実施してください。

初期化完了前にサーバ本体のリセットや電源の切断が行われると初期化は中断されます。
次回再開時は中断したところから初期化が再開されますので、途中でリセットや切断を行っても初期化は継続されます。
初期化処理が完了するまでは RAID1 ロジカルドライブは、非冗長性の状態となっています。初期化完了が完了すると、再度冗長性が確立されます。
初期化完了は GAM ユーティリィの ControllerView よりロジカルドライブ情報を表示させることにより Status が online であることからも確認できます。未完了状態は Critical となります。
下記、「初期化の完了時間の目安について」をご参照のうえ、その時間を越えても初期化処理が完了していない場合は、弊社修理相談窓口までご連絡ください。

1-1-2 初期化の完了時間の目安について

ハードディスクドライブへのアクセスがない場合、初期化の所要時間は下記の表の様になります。

これらの時間は OS が稼動しているトータル時間数で、途中で電源が切断された場合などは含みません。
ハードディスクドライブへのアクセスと並行して初期化が実行された場合には、アクセスのない状態より長い時間を要する場合があります。

		無負荷時	高負荷時
初期化処理時間	36GB	約 1.5 時間	約 6 時間
	73GB	約 3 時間	約 12 時間

※ 高負荷時は常に高負荷のハードディスクアクセスをおこなった場合の完了時間を示します。
※ **上記はあくまでも目安でお客様の環境により完了時間は前後する場合があります。**

2. USB CD-ROM ドライブから Windows 2000 Server SP4 適応済 CD-ROM を使って OS をインストールする場合の留意点

■ **留意点**

USB CD-ROM ドライブから Microsoft Windows 2000 Server Service Pack 4（SP4）適用済 CD-ROM を使用し、OS のインストールを行うと、Windows 2000 のインストールを完了するための、再起動のタイミングで以下の STOP エラーが表示される場合があります。

STOP: 0x0000001E(0xC0000005 、0xF3EC39F5 、0x00000000 、0x01010100)
KMODE_EXCEPTION_NOT_HANDLED

（※ 現象の詳細は Microsoft 社 HP サポートオンライン： http://support.microsoft.com/ に掲載されております。「KB838417」を参照願います。）

この問題を回避するために、以下の手順に沿って OS のインストールを行ってください。

■ **ServerStart を使用した OS インストール手順**

1. USB CD-ROM ドライブから ServerStart を起動し、ユーザーズガイド「第 3 章 ServerStart による OS のインストール」に沿って OS インストールの設定を行います。
2. 【 Windows 2000 のインストールを開始する 】をクリックし、「ServerStart 自動インストールモード」より画面の指示に沿って各種 CD-ROM の入れ換えを行ってゆくと、最後に以下のメッセージボックスが表示されます。

   システムが再起動します。
   フロッピーディスクドライブ、CD-ROM ドライブから全てのディスクを取り出して下さい。
   [OK]

   このとき、**USB CD-ROM ドライブのアクセスランプが消えていることを確認し、USB ケーブルをコネクタから抜いて、完全に USB CD ドライブをサーバからとりはずしてください。**

3. USB CD-ROM ドライブをとりはずしたのち、2.のメッセージボックスの［OK］ボタンをクリックすると、サーバは自動的に再起動します。

以降、OS のインストールが自動的に開始されます。
画面の指示に沿ってインストールを行ってください。

■ **手動での OS インストール手順**

1. USB CD-ROM ドライブから、ユーザーズガイド「第 4 章 OS の手動インストール」に沿って OS インストール作業を行います。
2. OS インストール作業の最後に、以下のようなメッセージボックスが表示されます。

> Windows 2000 セットアップ ウィザードの完了
>
> Windows 2000 セットアップは完了しました。
>
> ドライブに CD が挿入されている場合、取り除いてください。コンピュータを
> 再起動するには、[完了]をクリックしてください。
>
> [完了]

このとき、**USB CD-ROM ドライブのアクセスランプが消えていることを確認し、USB ケーブルをコネクタから抜いて、完全に USB CD ドライブをサーバからとりはずしてください。**

3. USB CD-ROM ドライブをとりはずしたのち、2.のメッセージボックスの［完了］ボタンをクリックすると、サーバは自動的に再起動します。

以降、ユーザーズガイドにしたがって、インストールを行ってください。

3. リモート通報機能について

BX620 S3 で SAN Boot 機能をご利用の場合には、OSC の専門スタッフが装置の稼動状態を正しく把握することができないため、リモート通報機能はご利用になれません。
現状の仕組みでは、故障が発生して予備(待機)ブレードに切替わったとき、リモート通報された障害が切替え前のブレードで発生したものなのか、または切替え後のブレードで発生したものなのか、特定することができない、といった問題が生じます。

4. 「PRIMRGY BX620 S3 サーバブレード 梱包物一覧：B7FH-A147-01」についての訂正事項

BX620 S3 SAN ブートベースモデルでは、シャーシとのセット商品となっているため、添付品が通常のものとは異なっていますので、ご注意ください。

訂正 1 本体の箱で型名（タイプ）を確認してください

以下のように読み替えてください。

本体の外箱に記載されている型名を確認し、ご購入の型名（タイプ）に ✔ を付けてください。型名の表記は、製品のタイプごとに下 3 桁または下 4 桁（下表の太字の部分）が異なります。

型名の表記	タイプ
□PGX6239**SA**	SAN Boot ベースモデル増設用サーバブレード（1 台）
□PGX6239**SAA**	SAN Boot ベースモデル増設用サーバブレード（1 台）
□PGX6239**SAB**	SAN Boot ベースモデル増設用サーバブレード（4 台）
□PGX6239**SBA**	SAN Boot ベースモデル用サーバブレード（5 台）
□PGX6239**SBB**	SAN Boot ベースモデル用サーバブレード（5 台）

訂正 共通添付品
以下の内容に読み替えてください。

□ 本体
□ 保証書
□ 『環境設定シート』
□ Server Management Tools フロッピーディスク

訂正 タイプ別添付品
以下の表に読み替えてください。

●:添付されています　-:添付されていません

添付品の名称	9SA	9SAA	9SAB	9SBA	9SBB
□ 『安全上のご注意』	●	●	ー	ー	ー
□ 『サーバブレード 梱包物一覧』(本紙)	●	●	ー	ー	ー
□ PRIMERGY ドキュメント＆ツール CD	●	●	ー	ー	ー
□ アレイコントローラ ドキュメント＆ツール CD	●	●	ー	ー	ー
□ ServerStart 一式	●	●	ー	ー	ー
□ ServerStart V6.609D CD-ROM(Disc1)	●	●	ー	ー	ー
□ ServerStart V6.609D CD-ROM(Disc2)	●	●	ー	ー	ー
□ ServerStart フロッピーディスク	●	●	ー	ー	ー
□ Systemwalker Resource Coodinator プロセッサライセンス	●	●	●	●	●

5. 「PRIMRGY BX620 S3 サーバブレード ユーザーズガイド:B7FH-4341-01」についての追記・訂正事項

訂正

下記の内容について訂正事項があります。該当箇所と併せてお読みください。

項	章	項目	現在の表記	訂正内容
37	2.1.1	表:LAN ケーブルを接続せずにインストール(開封)する場合	・SBS 2003(Service Pack 1 を適用する場合)	(削除)
43	2.2	■構築済みの RAID 環境を残してインストールする場合	「論理ドライブの表示」を選択してください。	「ディスクの表示」を選択してください。
136	4.3.1	第 4 章 OS の手動インストール / 9 チップセットドライバをインストールします。	¥DRIVERS¥ChipSet¥Intel¥E7230¥Setup.exe	¥DRIVERS¥ChipSet¥Intel¥5000P¥Setup.exe
136	4.3.1	第 4 章 OS の手動インストール / 10 ディスプレイドライバをインストールします。	¥DRIVERS¥VIDEO¥ATI¥Radeon¥Setup.exe	¥DRIVERS¥VIDEO¥ES1000¥Setup.exe
139	4.3.2	第 4 章 OS の手動インストール / 10 チップセットドライバをインストールします。	¥DRIVERS¥ChipSet¥Intel¥E7230¥Setup.exe	¥DRIVERS¥ChipSet¥Intel¥5000P¥Setup.exe
139	4.3.2	第 4 章 OS の手動インストール / 11 ディスプレイドライバをインストールします。	¥DRIVERS¥VIDEO¥ATI¥Radeon¥Setup.exe	¥DRIVERS¥VIDEO¥ES1000¥Setup.exe
142	4.3.3	第 4 章 OS の手動インストール / 9 チップセットドライバをインストールします。	¥DRIVERS¥ChipSet¥Intel¥E7230¥Setup.exe	¥DRIVERS¥ChipSet¥Intel¥5000P¥Setup.exe
142	4.3.3	第 4 章 OS の手動インストール / 10 ディスプレイドライバをインストールします。	¥DRIVERS¥VIDEO¥ATI¥Radeon¥Setup.exe	¥DRIVERS¥VIDEO¥ES1000¥Setup.exe
153	4.5.1	第 4 章 OS の手動インストール / 4.5.1Windows Server 2003 x64 の場合	¥DRIVERS¥SCSI¥Qlogic¥BX600x64	¥DRIVERS¥FCD¥STOR_MINOPORT

訂正 1.1 BX600 ブレードサーバのご紹介 （関連ページ：P.19）

誤）
●余裕の拡張性
・ メモリは、1 サーバブレードに**最大 16GB** まで搭載できます。

正）
●余裕の拡張性
・ メモリは、1 サーバブレードに**最大 32GB** まで搭載できます。

誤）
●高信頼性の実現
・ **PC2-4200 仕様に準拠したメモリ（DDR2 533 SDRAM）**による **Chipkill** メモリ機能および**スペアメモリ機能（メモリの構成による）**をサポートし、メモリエラー発生時のデータ修復機能を実現しています。

正）
●高信頼性の実現
・ **PC2-5300 仕様に準拠したメモリ（DDR2 667 SDRAM）**による **Chipkill™**メモリ機能および**ミラーリング**機能（メモリの構成による）をサポートし、メモリエラー発生時のデータ修復機能を実現しています。

訂正 2.1.1 内蔵オプションの取り付け （関連ページ：P.19）

誤）
■メモリ搭載時の注意
本サーバでは、メモリは**最大 16GB** までサポートしますが、使用する OS によって使用可能容量が異なります。また、サーバは、一部のメモリ領域を PCI リソースに使用するため、使用可能容量に制限があります。メモリの搭載可能容量と使用可能容量については、次の表を参考にしてください。

表：メモリの搭載可能容量と使用可能容量

OS	搭載メモリ容量	使用可能メモリ容量
Windows 2000 Server Windows Server 2003, Standard Edition Windows Server 2003 R2, Standard Edition	～3GB	搭載メモリ容量と同じ
	4GB	3GB（搭載メモリ容量－1GB）
Windows 2000 Advanced Server	～7GB	搭載メモリ容量と同じ [注 1]
	8GB	7GB（搭載メモリ容量－1GB）
Windows Server 2003, Enterprise Edition Windows Server 2003, Standard x64 Edition Windows Server 2003, Enterprise x64 Edition Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition	**～16GB**	搭載メモリ容量と同じ [注 1] [注 2]

［注 1］: 4GB 以上のメモリを搭載する場合は、"Boot.ini" ファイルに/PAE オプションを指定する必要があります（Windows Server 2003 x64 および Windows Server 2003 R2 x64 を除く）。

［注 2］: 8GB よりも多いメモリを搭載する場合は、Microsoft 社から提供されているホットフィックスモジュール(KB907892)を適用する必要があります。ホットフィックスモジュールは ServerStart にも格納されています。詳細は「5.5.1 ホットフィックスの適用」（→P.178）を参照してください。

正）
■メモリ搭載時の注意
本サーバでは、メモリは**最大 32GB** までサポートしますが、使用する OS によって使用可能容量が異なります。また、サーバは、一部のメモリ領域を PCI リソースに使用するため、使用可能容量に制限があります。メモリの搭載可能容量と使用可能容量については、次の表を参考にしてください。

表：メモリの搭載可能容量と使用可能容量

OS	搭載メモリ容量	使用可能メモリ容量
Windows 2000 Server Windows Server 2003, Standard Edition Windows Server 2003 R2, Standard Edition	～3GB	搭載メモリ容量と同じ
	4GB	3GB（搭載メモリ容量－1GB）
Windows 2000 Advanced Server	～7GB	搭載メモリ容量と同じ [注 1]
	8GB	7GB（搭載メモリ容量－1GB）
Windows Server 2003, Enterprise Edition Windows Server 2003, Standard x64 Edition Windows Server 2003, Enterprise x64 Edition Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition	**～32GB**	搭載メモリ容量と同じ [注 1] [注 2]

［注 1］: 4GB 以上のメモリを搭載する場合は、"Boot.ini" ファイルに/PAE オプションを指定する必要があります（Windows Server 2003 x64 および Windows Server 2003 R2 x64 を除く）。

［注 2］: 8GB よりも多いメモリを搭載する場合は、Microsoft 社から提供されているホットフィックスモジュール(KB907892)を適用する必要があります。ホットフィックスモジュールは ServerStart にも格納されています。詳細は「5.5.1 ホットフィックスの適用」（→P.178）を参照してください。

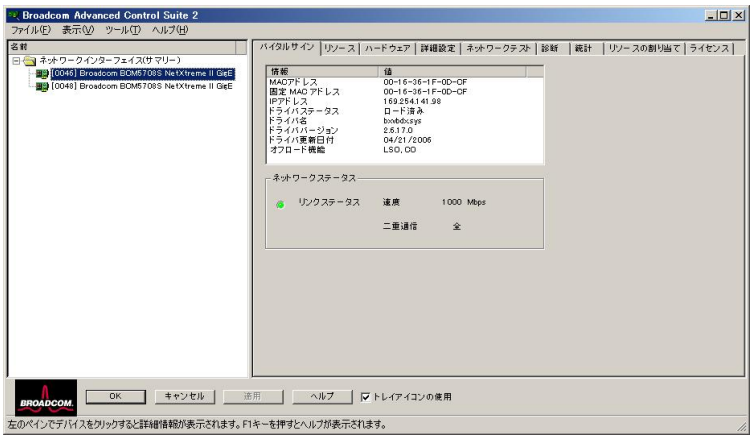
追加 5.6 LAN ドライバの詳細設定［BACS］（関連ページ：P.187）

BACS による Teaming 機能について、以下の内容を追加いたします。

Teaming 機能が Broadcom Advanced Control Suite 2」ユーティリティにより使用可能です。以下の手順にてご使用ください。Intel/Broadcom 製品のアダプタを問わず、Teaming が可能です。

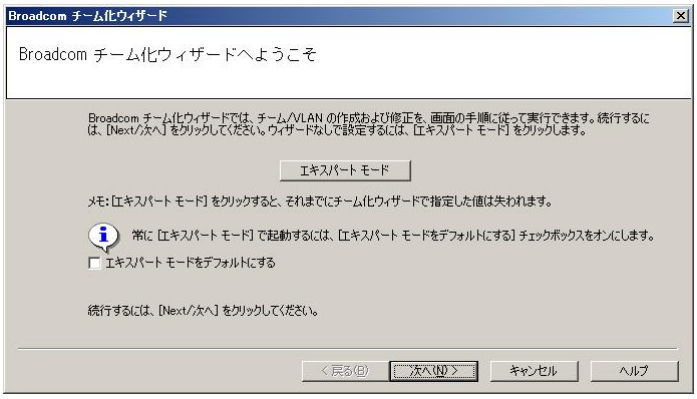
■ BACS Teaming の作成手順

1) 「スタート」-「すべてのプログラム」-「Broadcom」から「Broadcom Control Suite2」を起動します。

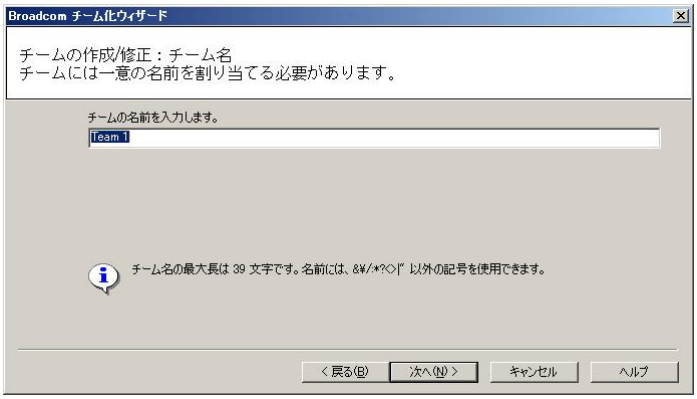


2) 「ツール」-「チームの作成」を選択します。

3) Broadcom チーム化ウィザードの画面が表示されるので、「次へ」をクリックします。



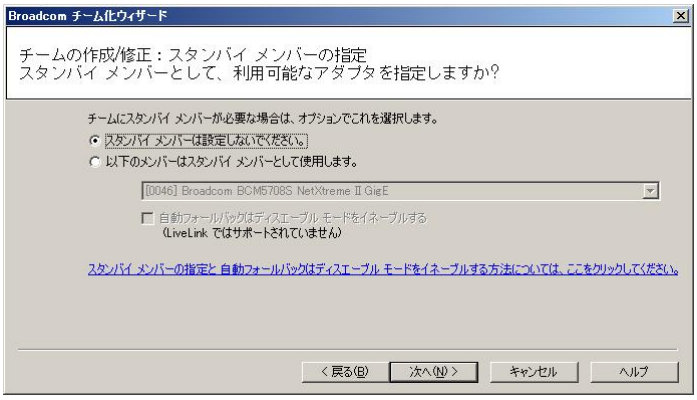
4) 「チーム化ウィザード」で任意のチーム名を入力し、「次へ」をクリックします。



5) 作成するチームのタイプを指定します。以降は SLB を例に説明します。

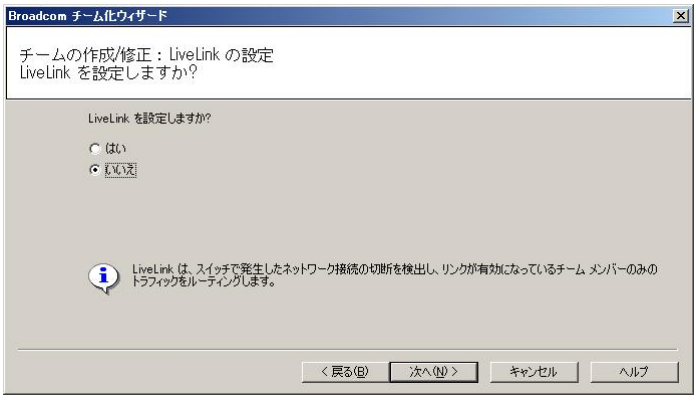
6) チームに含めるアダプタを指定します。

スタンバイメンバーとして利用するかを決定します。



※　スタンバイメンバーとして使用する場合、自動フォールバックが選択できます。
※　自動フォールバックは、LiveLink ではサポートされません。
※　LiveLink とは、スイッチで発生したネットワークの切断を検出し、リンクが有効になっているチームメンバーのみのトラフィックをルーティングするものです。

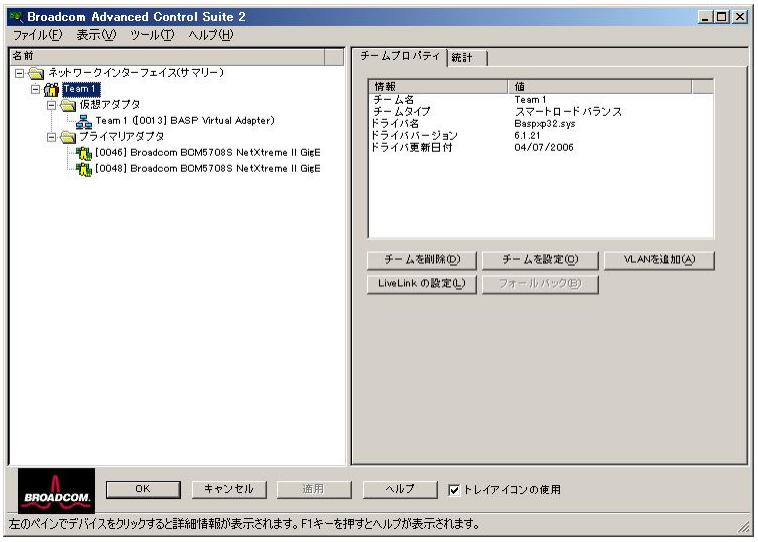
7) LiveLink の設定をします。



8) VLAN を作成するかどうかを指定します。

9) 完了をクリックします。

10) チームの設定が完了すると、上記で選択した複数のアダプタが、1つの仮想アダプタとして表示されます。IP アドレスはこの仮想アダプタに設定します。



■ チームの削除
「ツール」－「チームの削除」から作成したチームを削除します。

■ チームの保存
チーム作成後、「ファイル」－「チームに名前をつけて保存」により、作成したチームを保存します。

■ チームの復元
あらかじめ保存しておいたチームを「ファイル」－「チームの復元」により、呼び出します。
その後、「ファイル」－「適用」を実施して、チームの復元を完了します。

訂正 7.3.2 使用できる CPU と留意事項（関連ページ：P.235）
表：使用できる CPU 一覧について、以下の表に読み替えてください。

表：使用できる CPU 一覧

品名	型名	備考
Xeon プロセッサ 5110 (1.60GHz/4MB)	**PG-FG33R**	**1.60GHz/4MB 用、デュアルコア**
Xeon プロセッサ 5130 (2GHz/4MB)	**PG-FG33S**	**2GHz/4MB 用、デュアルコア**
Xeon プロセッサ 5148 (2.33GHz/4MB)	**PG-FG33V**	**2.33GHz/4MB 用、デュアルコア**
Xeon プロセッサ 5160 (3GHz/4MB)	**PG-FG33T**	**3GHz/4MB 用、デュアルコア**
Xeon プロセッサ E5310 (1.60GHz/2x4MB)	**PG-FG433**	**1.60GHz/2x4MB 用、クアッドコア**
Xeon プロセッサ X5355 (2.66GHz/2x4MB)	**PG-FG435**	**2.66GHz/2x4MB 用、クアッドコア**

訂正 7.4.2 使用できるメモリと留意事項（関連ページ：P.241）
表：使用できるメモリ一覧について、以下の表に読み替えてください。

表：使用できるメモリ一覧

品名	型名	備考
拡張 RAM モジュール-1GB	**PG-RM1CE**	512MB-DDR2 DIMM 2 枚セット
拡張 RAM モジュール-2GB	**PG-RM2CE**	1GB-DDR2 DIMM 2 枚セット
拡張 RAM モジュール-4GB	**PG-RM4CE**	2GB-DDR2 DIMM 2 枚セット
拡張 RAM モジュール-8GB	**PG-RM8CE**	**4GB-DDR2 DIMM 2 枚セット**

訂正 8.2.6 CPU Configuration サブメニュー（関連ページ:P.271）
表:CPU Configuration サブメニュー画面の項目説明について、以下の表に読み替えてください。

表:CPU Configuration サブメニュー画面の項目説明

項目	設定値	説明
C1E Support	Disabled（変更禁止）	CPU 内部の設定です。 **注意事項:** **・Xeon プロセッサ 5110（1.60GHz）/Xeon プロセッサ 5130（2GHz）Xeon プロセッサ 5160（3GHz）/Xeon プロセッサ 5148（2.33GHz）/Xeon E5310(1.60GHz)/Xeon X5355(2.66GHz)を搭載している場合、本項目は表示されません。**
Hardware Prefetcher	Enabled（変更禁止）	CPU 内部の設定です。
Adjacent Cache Line Prefetch	・Disabled ・Enabled（ご購入時）	CPU のキャッシュアクセス機能の使用について設定します。
Vanderpool Technology	・Disabled（ご購入時） ・Enabled	仮想化技術の使用について設定します。 **注意事項:** **・本項目は電源投入直後のみ選択できます。再起動時は、選択できません。**
Execute Disable Bit	・Disabled（ご購入時） ・Enabled	バッファ・オーバフローを防ぐセキュリティ機能の使用について設定します。
Intel(R) SpeedStep(tm) tech.	・Maximum ・Minimum ・Automatic ・Disabled（ご購入時）	CPU の省電力機能を設定します。 この項目は、オプションの **Xeon プロセッサ 5110(1.60GHz)/Xeon プロセッサ 5130(2GHz)/Xeon プロセッサ E5310(1.60GHz)**の CPU をご使用の場合は未サポートです。
Intel(R) C-STATE tech.	Disabled（変更禁止）	負荷に応じて CPU の状態を移動させて最適な性能・電力状態にさせる機能を設定します。

訂正 8.2.10 CPU Status サブメニュー（関連ページ P.278）
表:CPU Status サブメニュー画面の項目説明について、以下の表に読み替えてください。

表:CPU Status サブメニュー画面の項目説明

項目	設定値	説明
CPU1 Status	Enabled（変更禁止）	CPU の状態を表示します。 CPU の交換後には「Enabled」に設定してくだい。
CPU2 Status	Enabled（変更禁止）	
Hyper-Threading Function	・Disabled（ご購入時） ・Enabled	1 つの CPU を論理的に 2 つの CPU として運用するかどうかを設定します。この設定を有効にすると、CPU の内部資源を有効に使用することにより、パフォーマンスが向上する場合があります。 **注意事項:** **► ご使用になる OS およびアプリケーションによっては、ハイパースレッディング機能に対応していないものがあります。「Hyper-Threading」を「Enabled」に設定して使用する場合は、OS ベンダ、アプリケーションベンダに、ハイパースレッディング機能への対応を確認した上で使用してください。** **► Xeon プロセッサ 5110（1.60GHz）/Xeon プロセッサ 5130（2GHz）Xeon プロセッサ 5160（3GHz）/Xeon プロセッサ 5148（2.33GHz）/Xeon プロセッサ E5310(1.60GHz)/Xeon プロセッサ X5355(2.66GHz)を搭載している場合、本項目は表示されません。**

訂正 A　本体仕様（関連ページ P.340-342）
本体仕様について、以下の表に読み替えてください。

表：SAN Boot ベースモデル本体仕様

項目		機能・仕様				
タイプ		**SAN Boot ベースモデル**				
型名		**PGX6239SA**	**PGX6239SAA**	**PGX6239SAB**	**PGX6239SBA**	**PGX6239SBC**
CPU	タイプ	**デュアルコア インテル® Xeon® プロセッサー LV 5148**				
	周波数／キャッシュ	**2.33GHz / 4MB**				
	搭載数	1（最大 2）				
メモリ	標準	1GB（512MB メモリ×2 枚）				
	増設単位	1GB / 2GB / 4GB / **8GB**				
	最大容量	**32GB（4GB メモリ×8 スロット）**				
ビデオ RAM 容量		16MB				
グラフィックス		VGA チップ：ATI ES1000 解像度：640×480、800×600、1024×768、1280×1024 表示色：解像度、OS などによって異なる				
CD-ROM ドライブ		種類：DVD-ROM ドライブユニット（USB 外付けオプション）［注 1］				
2.5 インチストレージベイ		2 ベイ（全ベイホットプラグ対応）				
	標準	オプション				
	増設単位	36GB/73GB（10,000rpm、SAS）				
	最大容量	146GB（73GB×2 ）				
ディスクアレイ		標準 （オンボード SCSI アレイコントローラ）				
拡張カードスロット	拡張ボード用	**標準：PG-FCD102**、PCI-X 64bit/133MHz×1、または PCI-Express（×8）×1				
	拡張カード用	標準：なし、オプション：PCI-X 64bit/133MHz×1、または PCI-Express（×4）×1				
フロッピーディスクドライブ		オプション（USB フロッピーディスクドライブ）［注 1］				
ネットワーク		LAN（1Gbps）×2				
インタフェース		シャーシ［注 2］：キーボード、マウス、モニタ ディスプレイ／USB 拡張ケーブル［注 3］：モニタ、USB×2				
外形寸法 (単位：mm)		42×476×286 （横幅×奥行き×高さ）（BX600 S2 シャーシ 1 スロット占有）				
質量		7.0kg				
内蔵時計精度		誤差 2 ～ 3 分／月				
消費電力		**最大 233W（最大 839kJ/h）**				
電源		DC12V / DC5V（スタンバイ電源） シャーシより供給				
エネルギー消費効率 [注 4]		**c 区分、0.0038**				
サポート OS		Windows 2000 Server / Windows 2000 Advanced Server Windows Server 2003, Standard Edition / Windows Server 2003, Enterprise Edition Windows Server 2003, Standard x64 Edition / Windows Server 2003, Enterprise x64 Edition Windows Server 2003 R2, Standard Edition / Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition / Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition Red Hat Enterprise Linux ES (v.3 for x86、v.4 for x86、v.4 for EM64T) Red Hat Enterprise Linux AS (v.3 for x86、v.4 for x86、v.4 for EM64T) **VMware Infrastracutre 3**				

注 1: 本ブレードサーバシステムに最低 1 台必要です。また、DVD-ROM ドライブユニットは、CD-R/RW 機能がありますが、CD 媒体への書き込み機能は使用できません。
注 2: シャーシに接続した CRT/KB ケーブル（シャーシに 1 本標準添付）の、キーボード／マウス／ディスプレイの各コネクタに接続されます（各サーバブレードで切り替えて使用します）。
注 3: ディスプレイ／ USB 拡張ケーブル（シャーシに 1 本標準添付）を、サーバブレードの前面コネクタに接続して使用します。
注 4: エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により、測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。
本サーバブレードの仕様は、改善のため予告なしに変更することがあります。あらかじめ、ご了承ください。

訂正 B.1CPU の仕様（関連ページ：P343）
表：CPU 仕様について、以下の表に読み替えてください。

表：CPU 仕様

項目	機能・仕様					
品名	**Xeon プロセッサ 5110（1.60GHz/4MB）**	**Xeon プロセッサ 5130（2GHz/4MB）**	**Xeon プロセッサ 5160（3GHz/4MB）**	**Xeon プロセッサ 5148（2.33GHz/4MB）**	**Xeon プロセッサ E5310（1.60GHz/2x4MB）**	**Xeon プロセッサ X5355（2.66GHz/2x4MB）**
型名	**PG-FG33R**	**PG-FG33S**	**PG-FG33T**	**PG-FG33V**	**PG-FG433**	**PG-FG435**
動作クロック	**1.60GHz**	**2GHz**	**3GHz**	**2.33GHz**	**1.60GHz**	**2.33GHz**
内蔵２次キャッシュサイズ	**4MB**				**2x4MB**	
フロントサイドバス	**1066MHz**	**1333MHz**			**1066MHz**	**1333MHz**

訂正 B.2 メモリの仕様（関連ページ：P344）
表：メモリ仕様について、以下の表に読み替えてください。

表：メモリ仕様

項目	機能・仕様			
品名	拡張 RAM モジュール-1GB	拡張 RAM モジュール-2GB	拡張 RAM モジュール-4GB	**拡張 RAM モジュール-8GB**
型名	**PG-RM1CE**	**PG-RM2CE**	**PG-RM4CE**	**PG-RM8CE**
構成品	512MB FB-DIMM×2 枚	1GB FB-DIMM×2 枚	2GB FB-DIMM×2 枚	**4GB FB-DIMM×2 枚**
容量	1GB	2GB	4GB	**8GB**
動作クロック周波数	**667MHz**			
ピン数	240 ピン			

6. オプション製品の増設についての補足事項

本製品には全タイプ共通で『環境設定シート』（紙）が 1 部添付されています。障害復旧や定期保守の円滑化のために、お客様のシステム構成を記録していただくようお願いいたします。
なお、ドキュメント&ツール CD に格納されている電子データの環境設定シートは最新ではありません。
最新情報は、上述の紙の環境設定シート、および、インターネット情報ページ（http://primeserver.fujitsu.com/primergy/）内の『カタログ・資料』－『マニュアル ダウンロード』から最新の環境設定シートをダウンロードしてご使用くださいますようお願いいたします。

7. オプション製品の増設についての補足事項

PRIMERGY を安定してご使用いただくため、オプション製品（内蔵/外付けオプションおよび USB 機器等）の増設時は、システム構成図に記載されている製品を使用ください。弊社指定以外のオプション製品をご使用いただく場合、弊社において、サーバ製品の動作保証は一切しかねますので、ご注意願います。

以上

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2007